

JamHub™ the silent rehearsal studio

最新ニュースとアップデートについては、JamHub.com/community/forumをご覧ください。また、JamHubミュージシャン・コミュニティにもぜひご参加ください。

JamHub™ the silent rehearsal studio

BedRoom



GreenRoom



TourBus



オーナーズ・マニュアル

JamHub™サイレント・リハーサル・スタジオ安全ガイド

この安全ガイドでは、JamHubの安全な取り扱いについての重要な情報を説明しています。



負傷を防ぐため、JamHub使用前には安全に関する情報と操作説明書をお読みください。より詳しい操作説明については、安全ガイドに続くユーザー・ガイドをご覧ください。

警告: 安全ガイドの説明に従わない場合、火事、感電、その他の負傷または損害を引き起こす可能性があります。

JamHubの取り扱いと電源コードの使用

JamHubを曲げたり、落としたり、圧力をかけたり、穴を開けたり、焼やしたり、分解したりしないでください。電源コードを踏みつけたり、上に重い物をのせたり、強く挟んだりしないでください。

水および湿気

JamHubを水気のある場所（風呂、洗面台、キッチンシンク、洗濯機、湿気の多い地下室、プールサイドなど）で使用しないでください。JamHubを雨の中で使用しないでください。JamHubに食べ物や飲み物をこぼさないでください。

保管

JamHubを長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源アダプタの使用

JamHubの電源アダプタは、通常の使用中でも熱くなることがあります。常に、JamHubの電源アダプタのまわりには十分な換気空間を設けるようにし、電源アダプタに触れる際には十分に注意してください。以下のいずれかの場合には、JamHubの電源アダプタを取り外してください。

- 電源コードまたはプラグが擦り切れたり損傷したりした場合。
- アダプタが、雨、液体、または過度の湿気にさらされた場合。
- アダプタのケースが損傷した場合。
- アダプタを修理する必要があると思われる場合。
- アダプタを清掃する場合。

聴覚の損傷を避ける

ヘッドフォンを大音量で使用すると、聴覚障害が生じるおそれがあります。耳鳴りや聴力低下を感じたら、直ちに使用を中止し、専門の医師に相談してください。音量が大きいほど、聴覚障害が生じるまでの時間が短くなります。聴覚の専門家は、ヘッドフォンを大音量で使用する時間を制限し、聴覚を保護することを勧めています。

熱と換気

JamHubを、放熱器、蓄熱器、ストーブ、およびその他の熱を発生させる器具（アンプなど）の近くに置かないでください。放熱のため、まわりに十分な空間を設けてください。

お手入れ

JamHubは、水で湿らせた柔らかい布で清掃してください。

修理が必要となる故障

JamHubをご自身で修理することはしないでください。JamHubには、ユーザー自身で修理可能な部品は使用されていません。修理について、詳しくはwww.JamHub.comをご覧ください。以下のいずれかの場合、専門の修理担当者による修理が必要です。

- 電源コードまたはプラグが損傷した場合。
- JamHub内部に物が落ちたり、液体がこぼれた場合。
- JamHubが雨または過度の湿気にさらされた場合。
- JamHubが正常に動作しない、または性能に目立った変化があるように思える場合。
- JamHubを落とした場合、または筐体が損傷した場合。

オーナーズ・マニュアル - はじめに

このたびは、JamHub™サイレント・リハーサルスタジオをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本製品をお使いいただくことにより、音でまわりに迷惑をかけることなく、いつでもどこでもジャムセッションが行えます。

JamHubチームは、クオリティの高い製品の開発提供に情熱を傾けるミュージシャンとその他により構成されています。

弊社製品ラインとJamHubの歴史について、詳しくはwww.JamHub.comをご覧ください。弊社ウェブサイトでは、JamHubを使用する他のミュージシャンや、JamHub考案者および開発チームと体験を共有することができます。また、製品活用のヒントやアドバイスもご覧いただけます。

JamHubは、楽しみながら演奏や作曲を行える製品をお届けするべく、製品開発を行っています。音楽を楽しむこと、それこそミュージシャンであることのすべてではないでしょうか。

オーナーズ・マニュアル:新しいアプローチ

オーナーズ・マニュアルは、特殊な文書です。いわゆる「左脳」タイプの、分析的な人による分析的な人のための文章で書かれていることがほとんどです。しかし、こういった文章を軽視しがちな「右脳」タイプのクリエイティブな人々にこそ、マニュアルが役立つことが多いのも事実です。そこで、私たちは少し変わったアプローチを採用することにしました。ミュージシャンには左脳タイプも右脳タイプもいるのですから、どちらも満足させることのできるマニュアルをデザインしようと考えたのです。

左脳:分析的、言語的、数値的

ページのこちら側には、右脳タイプ向けの以下のような内容が記載されています。

- 数値
- 仕様
- 機能の説明
- 事実記述

右脳:創造的、視覚的、感情的

ページのこちら側には、左脳タイプ向けの以下のような内容が記載されています。

- 機能の利点
- ヒントやアドバイス
- 他の機器への接続

この文書の活用方法

左脳タイプと右脳タイプの両方に言えることですが、JamHubクイック・スタート・ガイドを2回お読みいただければ、操作の90%は理解できます。また、「接続」と「レベルの設定」のセクションをしっかりと理解することも必要です。この2つがしっかり理解できていれば、いつでもすばらしいジャムセッションが行えるはずです。理解できていなければ、いらだちを感じる場面にぶつかることがあるでしょう。レベルの設定は、ミュージシャンに必須の知識です。レコーディング、ライブ演奏、JamHubでのリハーサルで必要となります。それほど難しくはありませんし、最高のジャム・セッションを行うには絶対不可欠な知識です。ですから、必ず理解するようにしましょう。



GreenRoom
モデルの例

JamHub™
by BreezSong LLC

左脳:

JamHubはマルチ入力機器です。特に、ミュージシャンが騒音を気にせず何度もジャム・セッションやリハーサルを行えるようデザインされています。これには数多くの利点がありますが、バンドが演奏スキルをすばやく上達させることができることもそのひとつです。研究では、リードの練習のクオリティが上がると、スキルの上達スピードが上がるという結果が出ています。リハーサルのクオリティを上げることは、スキルの上達に役立ちます。

モデリング・アンプ、ヘッドフォン・ジャック付きキーボード、マイク、ヘッドフォンなどの練習用の機器を接続しましょう。バンドの各メンバーも同じように接続します。それぞれのミックスが設定できたら、演奏開始です。

JamHubを使えば、周りに迷惑をかけずに長時間演奏することができます。また、(ヘッドフォンの音量を適切に設定していれば)自分の耳に負担をかけることもありません。さらに、音量の大きいアンプを小さな部屋で使うとサウンドが濁りがちですが、JamHubを使えばクリアなサウンドでジャム・セッションが行えるため、ジャム・セッションのクオリティとリハーサルの効率が大幅に向上します。

JamHubのSoleMix™コントロールを使えば、あなたの耳に聞こえるサウンドをコントロールすることもできます。音量との戦いは過去のものとなりました。ベーシストの音が大きすぎるなら、あなたのJamHubセクションを操作して、ベーシストの音量を下げればよいのです。また、ベーシストは、ドラマーの音量を上げ、ギタリストの音量を下げることで、グルーブをしっかりと捉えることができます。メンバー各自が自分の耳に聞こえるサウンドをコントロールすることができるため、上達スピードが向上します。

右脳:

JamHubを使えば、あなたのバンドや他のバンドと一緒にいつでもどこでもジャム・セッションが行えます。これは非常に便利です。ミュージシャンは、それぞれ色分けされたセクションを選び、楽器、マイク、ヘッドフォンを接続したら、自分のセクションのSoleMixコントロールを使って独自のミックスを作成することができます。もうこれ以上、音量と格闘することも、濁ったサウンドにうんざりすることもありません。ジャム・セッションできる回数が増えるだけでなく、上達スピードが上がり、まったく新しいアレンジを練習することができます。

目次

左脳:

目次は、マニュアルの各項目を確認し、必要の情報をすばやく効果的に入手するのに便利です。

右脳:

マニュアルを順にめくっていき、図を目安に必要な情報を探していけば、特に目次を確認する必要はありません。情報が見つけやすくなるよう、このガイドでは図を多用しています。

内容

安全性について..... 2

はじめに..... 3

 新しいアプローチ..... 3

この文書の活用方法..... 3

JamHubについて..... 4

スタートアップ:概要..... 6

ステップ1:つまみを下げる..... 6

ステップ2:接続..... 7

ステップ3:トリム・レベルを設定する..... 8

ステップ4:ステージ・コントロールを使う..... 8

ステップ5:ヘッドフォン音量を調節する..... 9

ステップ6:SoleMix™コントロール・セクションを使う..... 9,10

ステップ7:SoleMix Remoteを設定する..... 11

SoleMixコントロール:詳しい説明..... 12

 Rセクションについて..... 12

 1-Rスイッチを使う..... 13

 エフェクト・エンジンと設定..... 13

 エフェクト・エンジンについて..... 14

JamHubモデル比較..... 15

図表..... 15,16

 接続図..... 15

 入力/出力図..... 16

トリム・コントロール:詳しい説明..... 17

GreenRoomとTourBusで使用できる追加機能

 ファントム電源..... 17

TourBusの追加機能:レコーディング..... 18

 メニューとソフトキー..... 18

 Homeメニュー..... 19

 メトロノーム機能..... 19

 Utilメニュー..... 19

 ディレクトリ..... 20

 マーク記入とマーク削除機能..... 20

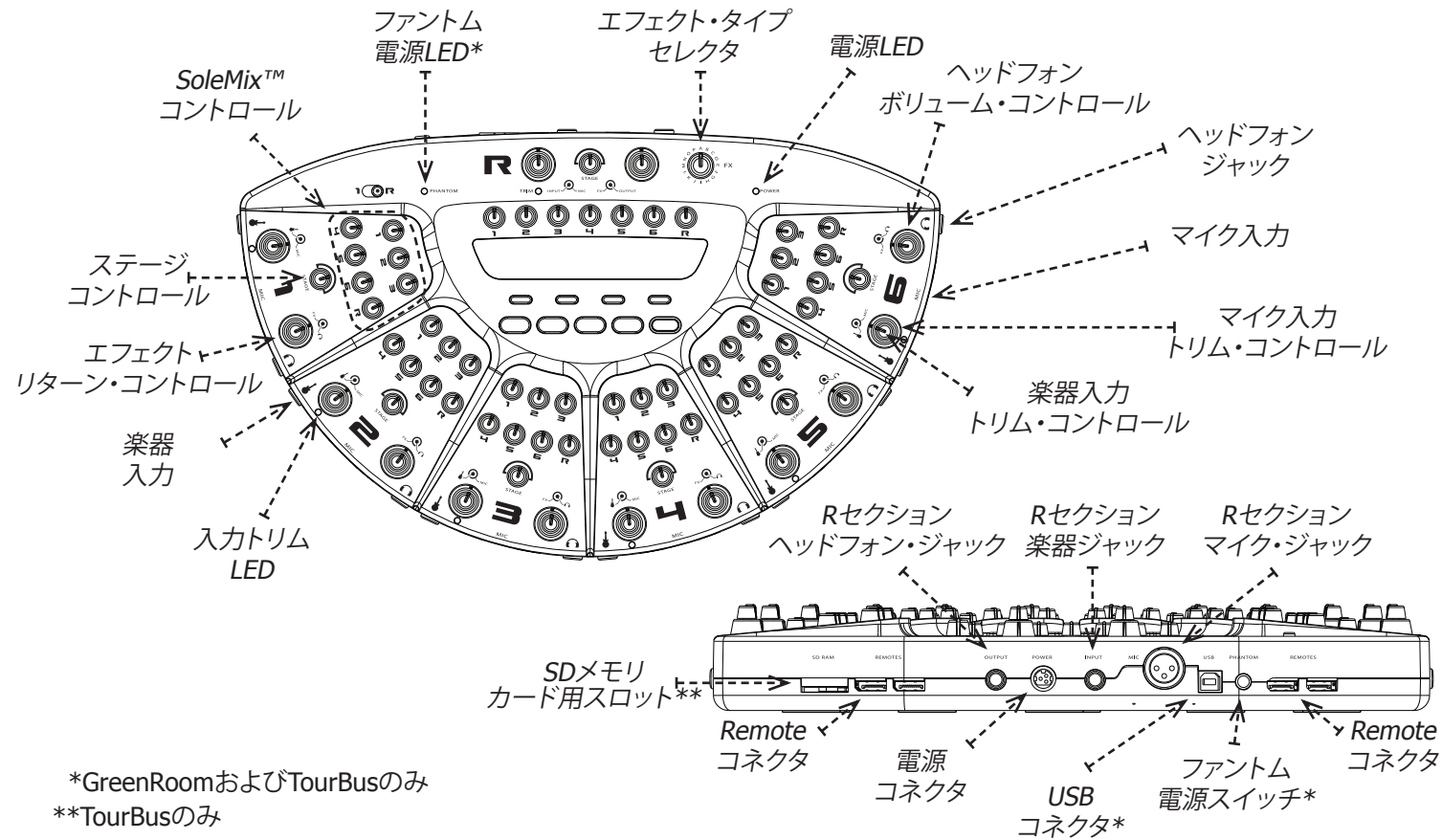
まとめ..... 20

 FAQ..... 21,22

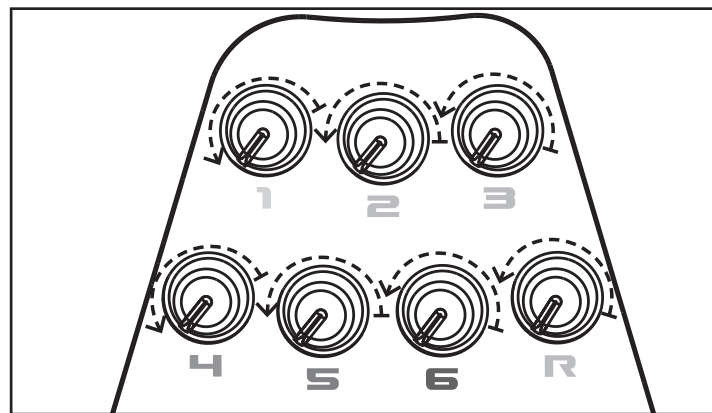
 警告:必ずお読みください..... 22

保証..... 23

スタートアップ



ステップ1:すべてのつまみを下げる



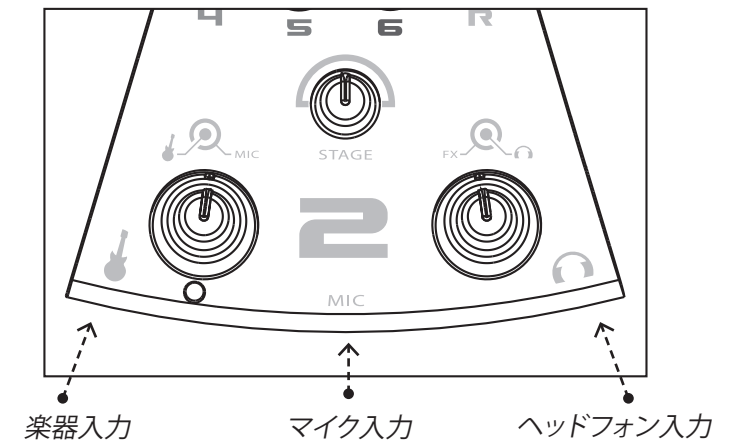
左脳:

JamHubのすべてのつまみをゼロまで下げて(反時計回りに最後まで回して)、接地と接続によるポップノイズから機器とヘッドフォンを守りましょう。

右脳:

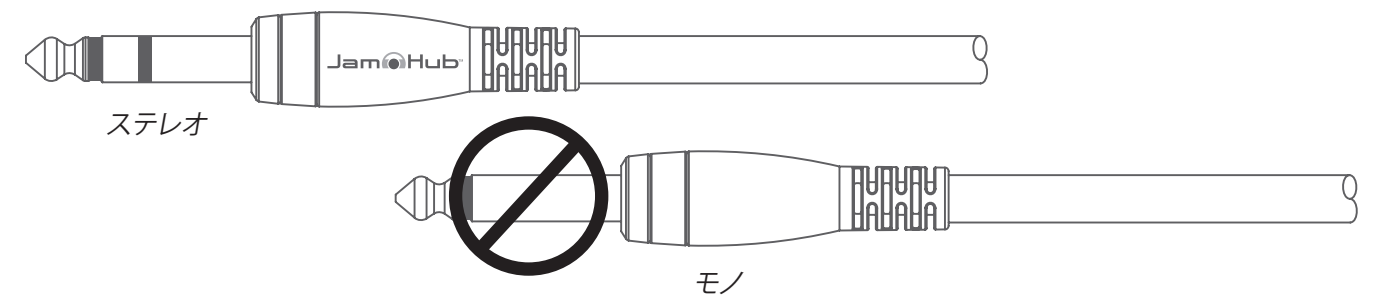
耳と機器を守りましょう。ヘッドフォンを装着する前に、JamHubの各セクションのつまみをすべて下げます。今すぐ下げてください。

ステップ2:接続



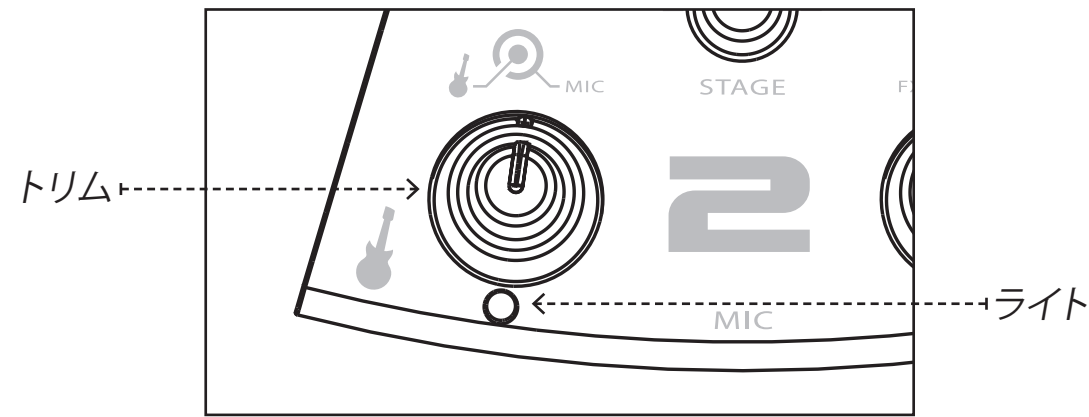
1. 電源アダプタを差し込みます。JamHubが使用可能になると、青色のLEDが点灯します。
2. 自分のセクションを選びます。
3. ステレオ (TRS) ケーブルを使って、演奏する楽器を接続します。楽器かアンプのヘッドフォン・ジャックを使いましょう。音質が向上します。
4. マイクを接続します。
5. ヘッドフォンを接続します。
6. 一緒に演奏するメンバーにも、ステップ2から5に従ってそれぞれ接続してもらいます。
7. これで準備はほぼ完了です。演奏を始める前に、非常に重要な注意点が1つあります。

重要!楽器は、ステレオの楽器ケーブルまたはステレオ・アダプタを使って接続してください!



必ずステレオ・ケーブルを使って楽器を接続してください。現実世界では、私たちは両耳を使って(つまりステレオで)音を聞き取っています。JamHubは、その現実世界と同じステレオ環境です。楽器には、リバーブやその他のステレオ・エフェクトが含まれていることがよくあります。そのため、JamHubは、ミュージシャンにとって最高のリスニング環境を生み出すことができるよう、ステレオ信号を取り込めるようデザインされています。標準的なギター・ケーブルなどのモノ・ケーブルを使うと、すべての音が左耳にだけ伝わります(モノ・ケーブルをステレオ・ジャックに差し込むとこのように聞こえます)。モノ・ケーブルを使わなければならない場合は、付属のモノ1/4インチ・メス・アダプタを、ステレオ1/4インチ・オス・アダプタに接続します。

ステップ3:トリム・レベルを設定する



1. 「トリム」と呼ばれるダブルつまみを使って、入力ゲインを設定します(メモ: このステップでヘッドフォンを使う必要はありません)。トリムのダブルつまみの下に点灯するライトで操作を確認することができます。
2. マイクに話しかけながら、LEDが黄色に点灯するようになるまで、外側/下側のつまみを(時計回りに動かして)上げます。その後、少し下げます。
3. 楽器の音を出しながら、LEDが黄色に点灯するようになるまで、内側/上側のつまみを(時計回りに動かして)上げます。その後、少し下げます。
4. ジャム・セッションを行いながら、トリムの設定を確認しましょう。バンドの調子が上がってくるにつれて、入力レベルが変化することもあります。下の表を参考にしてください。

まとめ

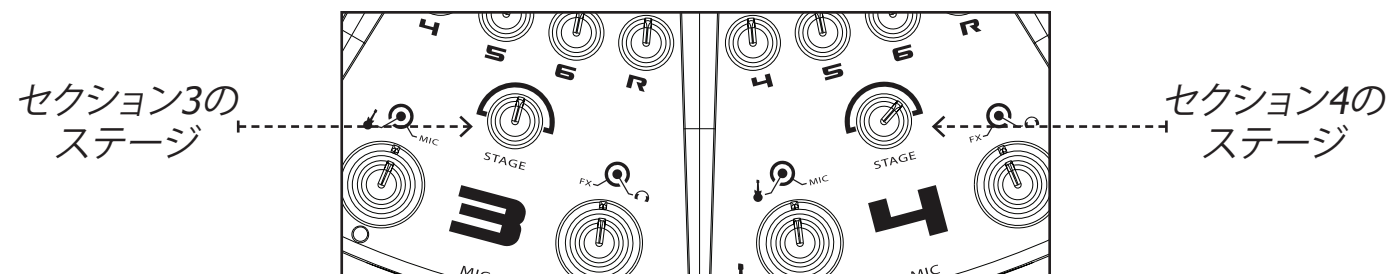
左脳:

緑 = 信号
黄 = クリッピングの危険あり(-6dB)
赤 = プリアンプがクリッピング(+6dB)

右脳:

緑 = 良
黄 = 注意
赤 = 悪

ステップ4:ステージ・コントロールを使って仮想の立ち位置を設定する



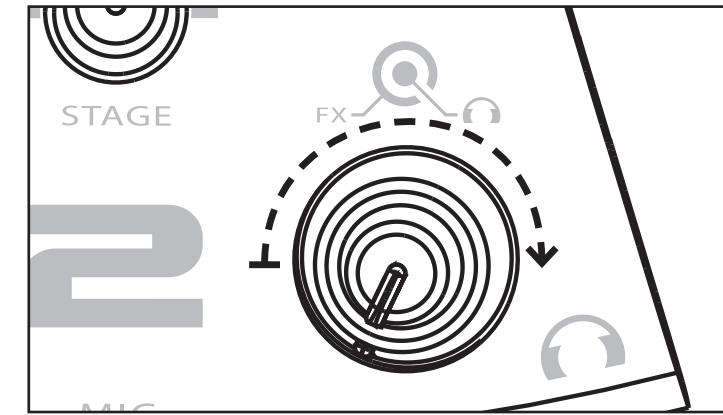
左脳:

ステージ・コントロールとは、ミックス内でミュージシャンの位置が重ならないよう、パンやバランスをコントロールすることをいいます。人間は、2つの受容器官(耳)を使って音を知覚します。耳は互いに約15センチ離れており、音がどの位置からやってくるのかを聞き分けることができます。音をさまざまな位置に「動かす」ことで、私たちの耳は音をよりクリアに知覚することができるのです。(ウィキペディアには、聴覚に関する記事が掲載されています。詳しくは、以下のリンクからご覧ください。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/カクテルパーティー効果>)

右脳:

ジャム・セッション中に、バンド・メンバーの誰かがステージの真ん中に立って演奏することはありますか?ありませんよね。ステージ・コントロールを使えば、音をバランスよく配置させることができます。ライブ演奏のとき、メンバーの立ち位置を決めるようなものです。サウンドがよりクリアになり、ジャム・セッションがより楽しくなります。優れた録音物では、楽器がさまざまな位置にパンされて(振り分けられています)。その理由について、詳しくはウィキペディアの記事 (<http://ja.wikipedia.org/wiki/カクテルパーティー効果>) をご覧ください。配置の重要性を理解できれば、スタジオでの作業にも役立ちます。

ステップ5:ヘッドフォンの音量を上げる



左脳:

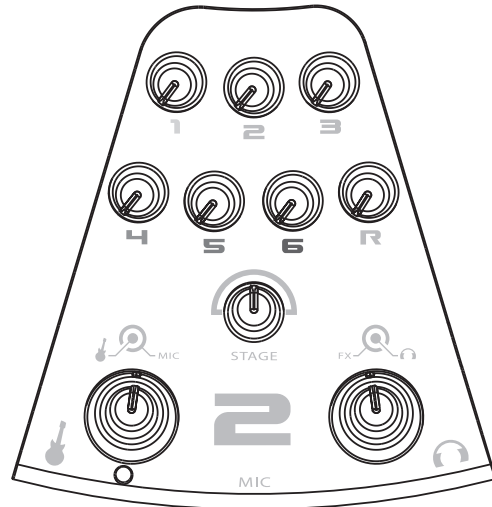
ヘッドフォンの出力コントロールをゼロ(反時計回りに最後まで回した状態)からスタートし、ゆっくりと上げていきます。JamHubの各セクションではミックスを独自にコントロールできますので、ヘッドフォン・アンプへ出力される前の出力レベルはセクションによりそれぞれ異なります。低いレベルからゆっくりと上げていきましょう。また、ヘッドフォンのインピーダンスも、ヘッドフォンによりそれぞれ異なります。JamHubはあらゆるインピーダンスを扱えるようデザインされており、各ヘッドフォンのボリュームつまみの設定はそれぞれ異なります。

右脳:

聴覚にダメージを与えないようにしましょう。ボリュームは、ゆっくり、ゆっくり上げてください。また、JamHubはほとんどのヘッドフォンに対応していますが、クオリティがいまいちなヘッドフォンの音質を上げることはできません。なるべく高品質のヘッドフォンを使用しましょう。

(JamHub考案者からのお願い:耳をいたわり、聴覚を守りましょう。大音量で聴覚にダメージを与えるのは、愚かでしかありません。このような行為は、ギタリストがその命である指先を切り落とすようなものです。失ってしまえば、もう元には戻りません。これから長い間音楽を楽しむためにも、聴覚にダメージを与える行為は止めましょう。)

ステップ6:SoleMixコントロール・セクションを使う



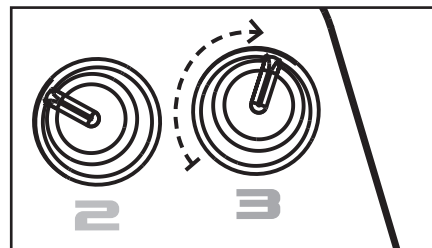
左脳:

SoleMixコントロール・セクションでは、JamHub内にある複数のステレオ・バスをタップすることができます。こうして、各ミュージシャンに聞こえる出力ミックスをコントロールすることができます。

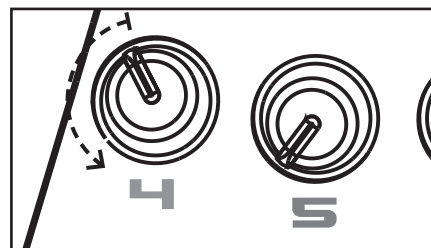
右脳:

各SoleMixコントロール・セクションは、個別のミキサーのようなものです。それぞれのメンバーが、好みのミックスを独自に作成することができます。JamHubの出力コントロールを、複数のミキサーが1つのユニットにまとめられたものと考えるとよいでしょう。それぞれが、自分で独自のミックスを作成し、クリエイティブな空間をコントロールすることができますというわけです。

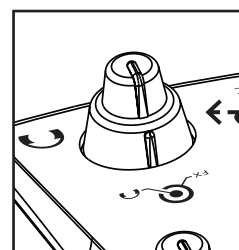
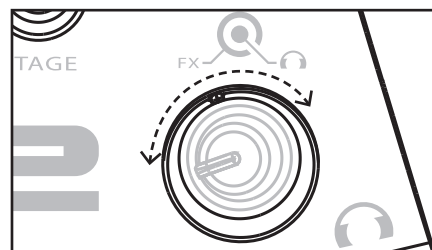
セクション3のミュージシャンの音量を上げるには、3のつまみを上げます。



セクション4のミュージシャンの音量を下げるには、4のつまみを下げます。



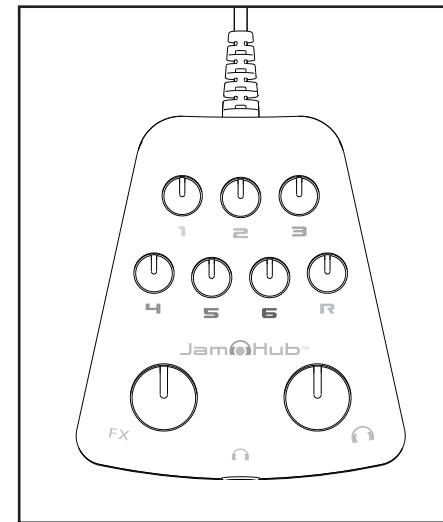
エフェクトを調節するには、リターンつまみを左右に回します。



エフェクト・リターンは、JamHubのメイン・ユニットの各SoleMixセクションにあるヘッドフォン・ボリュームの下にあります。SoleMix Remoteにも、独自のつまみがあります。

詳しくは、「エフェクト・セクション」をご覧ください。

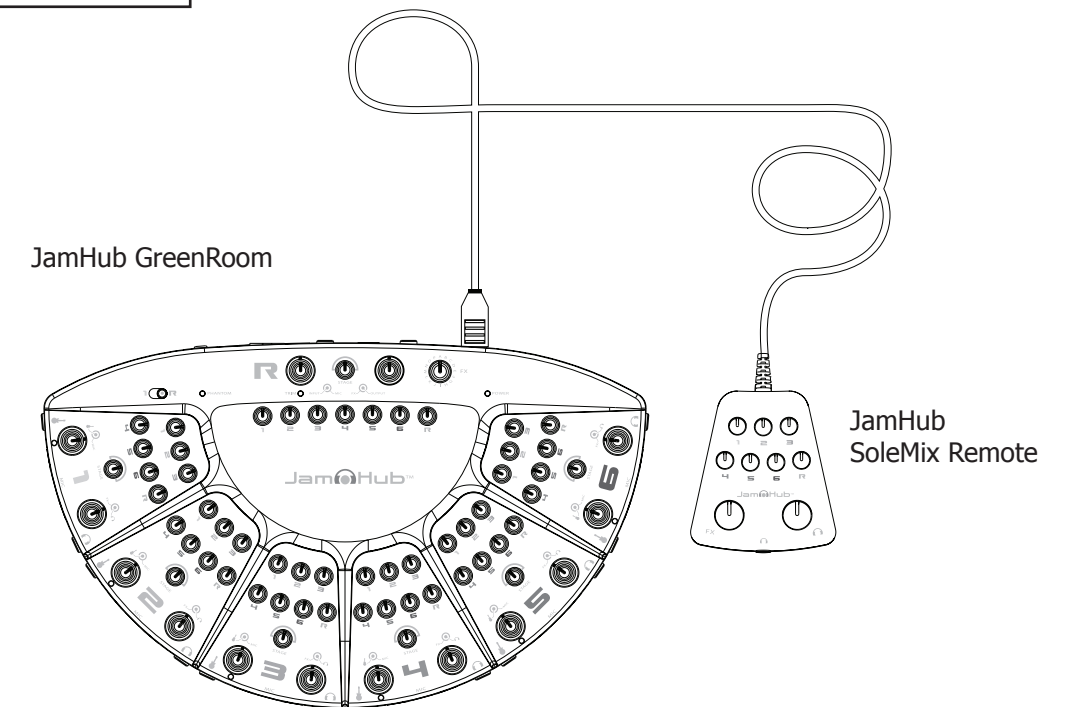
ステップ7:SoleMix Remoteのセットアップ



すべてのJamHubモデルには、SoleMix Remoteを追加することができます。JamHub GreenRoomまたはTourBusをお買い上げいただきました場合、SoleMix Remoteが付属しています。BedRoomモデルには、SoleMix Remote用コネクタが1基搭載されています。GreenRoomとTourBusには、コネクタが4基搭載されています。ご使用のJamHubシステムに、1つまたは複数のSoleMix Remoteを追加したい場合は、お近くのJamHub正規販売店にてSoleMix Remoteをお買い求めください。

SoleMix Remoteでは、Remoteの出力ジャック独自のミックスを作成することができます。Remoteにはそれぞれ独自のヘッドフォン・ジャックが用意されており、JamHubメイン・ユニットから1つのケーブルを介してミックスと出力レベルを完全にコントロールすることができます。

SoleMix Remoteは、ドラマーやキーボーディストなど、機器の背後に「閉じ込められている」ミュージシャンが、JamHubメイン・ユニットを動かさなくてもミックスを変更できるよう開発されました。Remoteは、JamHubのSoleMixセクションとほとんど同じように動作します。異なるのは、入力セクション(入力トリム、ジャック、ステージ・コントロール)がないことです。下の図は、Remoteのセットアップ例です。



左脳:

SoleMix Remoteには、入力バスすべてをタップする独自の出力セクションが装備されています。たとえば、JamHub GreenRoomには、メイン・ユニットにSoleMixセクションが7つ、加えてRemote1つが装備されています。つまり、計8つのミックスが行えるということです。Remoteを3つ追加購入すれば、GreenRoomモデルの出力機能を最大限に活用し、メイン・ユニットの出力セクション7つとRemoteの出力セクション4つの計11のミックスを1台のJamHubで使用できます。この拡張性により、幅広いセットアップ・オプションから選択でき、さまざまなバンド構成によるジャム・セッションが可能です。

右脳:

SoleMix Remoteは、入力のない別個の「出力ミキサー」をシステムに追加するようなものです。Remoteは、どのシステムにも追加することができます。

(メモ:SoleMix Remoteには、GreenRoomやTourBusと同じように7つのミックス・コントロールがありますが、Remoteのミックス・コントロールの機能はBedRoomと同じで、オーディオ・コントロール5と6は無効です。)

ここまでで、ジャム・セッションを行うのに必要な知識は十分得ることができたと思います。しかし、ぜひ最後までマニュアルを読み通すことをお勧めします。詳しい説明が必要となるJamHubの操作についていくつか説明しています。また、www.JamHub.comの「コミュニティ (Community)」セクションもぜひご覧ください。JamHubコミュニティに参加し、他のJamHubユーザーと体験を共有しましょう。

SoleMixコントロール

SoleMixコントロールは、JamHubの各セクションとSoleMix Remoteにあります。分かりやすく操作が簡単なので、JamHubシステムの基本レイアウトとデザインが理解できれば、すぐに使えるようになります。

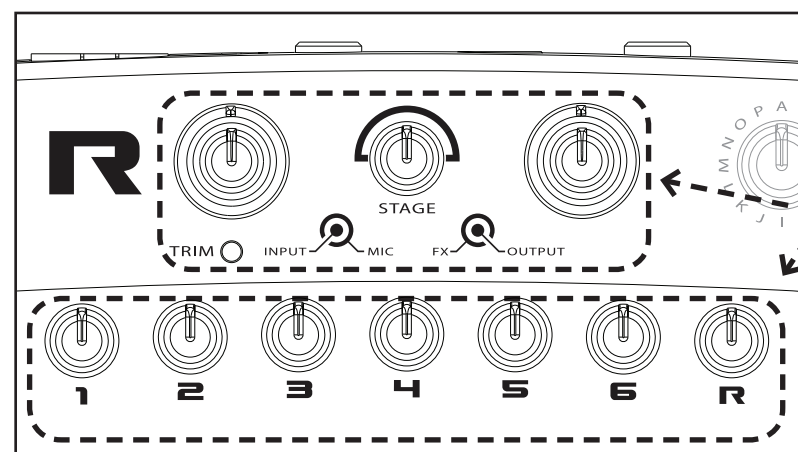
まず、JamHubを上から見てみましょう。番号が付けられたセクションが4つまたは6つあり、各セクションは色分けされています。(Rセクションについては、このあと説明します。)

普通は、1人のミュージシャンが1つのセクションを使います。あなたがギタリストの場合、マイクとモデリング・アンプ・デバイスをセクション1に接続します。バンドの各メンバーは、各自のSoleMixセクションの「1」のコントロールを上げ下げして、各自のヘッドフォンを通して聞こえるあなたの音の音量を調整することができます。「2」、「3」、「4」のコントロールも同じように機能します。

エフェクト・リターンつまみも重要なコントロールです。このつまみでは、エフェクトの効き具合を調整することができます。「ドライ」な(エフェクトのかかっていない)信号は各メンバーのSoleMixコントロールを経由して受信され、「ウェット」な(エフェクトのかかった)信号は「FX」コントロール(ヘッドフォン・ボリュームの下)を経由して受信されます。

JamHubの優れている点は、1つのセクションを理解すれば、すべてのセクションを理解することができることです。便利でしょう？

Rセクションについて



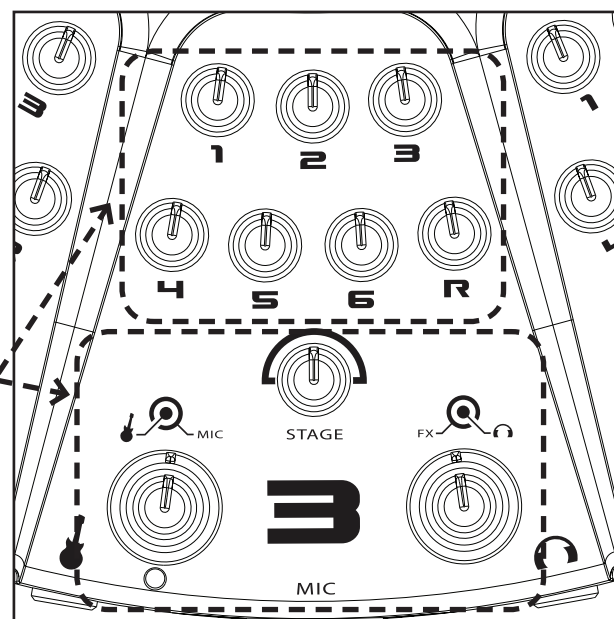
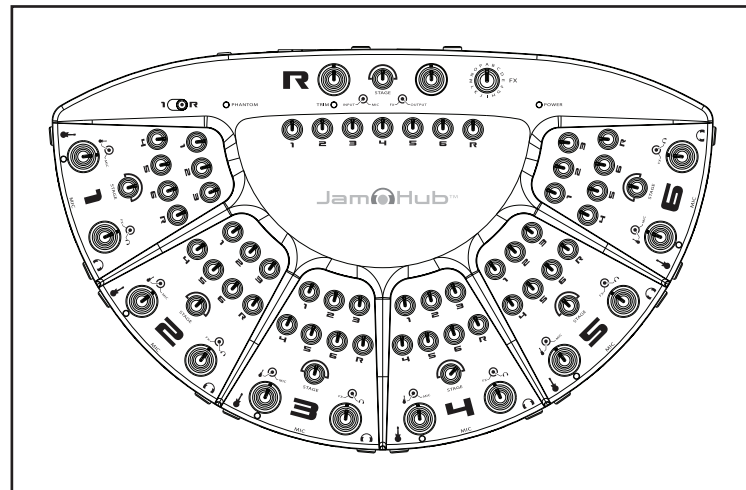
Rセクションのレイアウト

実はとても簡単です。Rセクション(「R」は「リア」または「レコーディング」を示しています)は、他のすべてのSoleMixセクションとまったく同じように機能します。見た目は少し違っていますが、詳しく見てみると、つまみはすべて同じであることが分かります。異なっているのはレイアウトだけです。

お気に入りの曲に合わせてジャム・セッションしたい場合や、新曲を練習する必要がある場合は、MP3プレーヤーをRセクションに接続します。こうすれば、ミュージシャンは、それぞれのSoleMixセクションのRつまみを上げ下げして、曲の音量を調整することができます。

Rセクションは、レコーディングにも使えます。各ミュージシャンに聞こえるミックスがそれぞれ異なるように、レコーディング用のミックスも独自に操作できます。それでは、ミュージシャンがこのセクションを使うことはできるでしょうか?もちろんです!上で説明したとおり、Rセクションは、JamHubにあるセクションの1つに過ぎません。番号の代わりにRの文字を割り当てたのだと考えると分かりやすいでしょう。

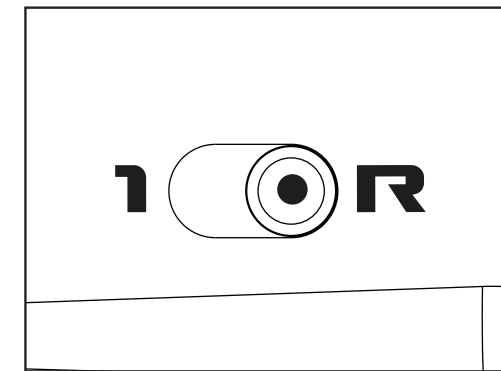
コンピュータまたはポータブルレコーダをセットアップし、レコーディング用のミックスを作成します。レコーディングのミックス担当のメンバーがセクション1に接続されていることを確認しましょう。その理由は次で説明しています。



SoleMixセクションのレイアウト

1-Rスイッチを使ってレコーディング用ミックスを試聴する

1-Rスイッチは、セクション1とRセクションから送られてくるミックスをモニターするのに使います。あなたがレコーディングのミックス担当である場合、Rのミックスと、チャンネル1の自分のミックスの両方をモニターしなければなりません。このような場合に備えて、JamHubには、2つのセクションをすばやく切り替えることのできる小さなスイッチがついています。



左脳:

このスイッチは、Rセクションの出力をセクション1のヘッドフォン・ジャックへとリダイレクト(出力先を変更)します。スイッチが1の位置にあるとき、セクション1のSoleMix出力は、セクション1のヘッドフォン・ジャックへと送信されます。スイッチがRの位置にあるとき、Rのヘッドフォン・ジャックへと送信されている出力は、セクション1のヘッドフォン・ジャックへと送られます。

右脳:

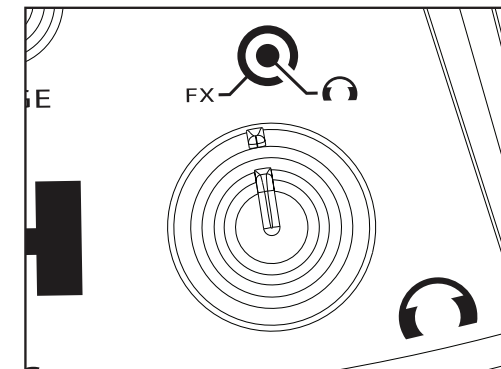
あなたがレコーディングのミックス担当である場合、自分のミックスとレコーディングされるミックスの両方を聴く必要があります。ヘッドフォンを自分のセクションのヘッドフォン・ジャックから抜き、Rセクションのヘッドフォン・ジャックに接続することで、レコーディングのミックスを聴くことができます。または、セクション1をあなたのミックスにすれば、ヘッドフォンをつないだまま、1-Rスイッチを使ってあなたのミックスとレコーディング用のミックスをすばやく切り替えることができます。

エフェクト・エンジンと設定

JamHubサイレント・リハーサル・スタジオのエフェクト・エンジンでは、ユニットの「空間」を設定し、その可聴範囲を設定することができます。または、フランジャーやフェイザーといったエフェクトを使って、サウンドに変化を付けることもできます。

各セクションとRemoteでは、ミックスに対するエフェクト・エンジンの効き具合を独自に設定することができます。エフェクト・エンジンはSoleMixコントロールの一部ですので、ボーカルへの効き具合も各自が独自に設定することができます。

エフェクト・エンジンは、マイク入力にのみ接続されています。ほとんどのモデリング・アンプ、キーボード、エレクトロニック・ドラムには独自の内蔵エフェクトが含まれていることから、この仕様を採用しています。リバーブにリバーブを重ねた時の音を聞いたことがあるなら、なぜ2つをミックスさせない仕様を採用しているかがご理解いただけるでしょう。



左脳:

ステレオ・エフェクト・エンジンは、24ビット/48 kHzのオーディオ・コーデックと連結されており、優れたサウンド・クオリティを約束します。エフェクト・エンジンには16のプリセット・アルゴリズムがあり、基本的エフェクトが網羅されていることはもちろん、少し変わったエフェクトもいくつか搭載されています。コーデックは、広帯域幅(100dB)で低ノイズ(S/N比105dB)です。

右脳:

エフェクトのオプションは、さまざまなスタイルをカバーしています。各ミュージシャンは、エフェクトつまみを使ってエフェクトの効き具合をコントロールすることができます。

JamHubサイレント・リハーサル・スタジオのエフェクト・エンジン・ガイド

エフェクト一覧

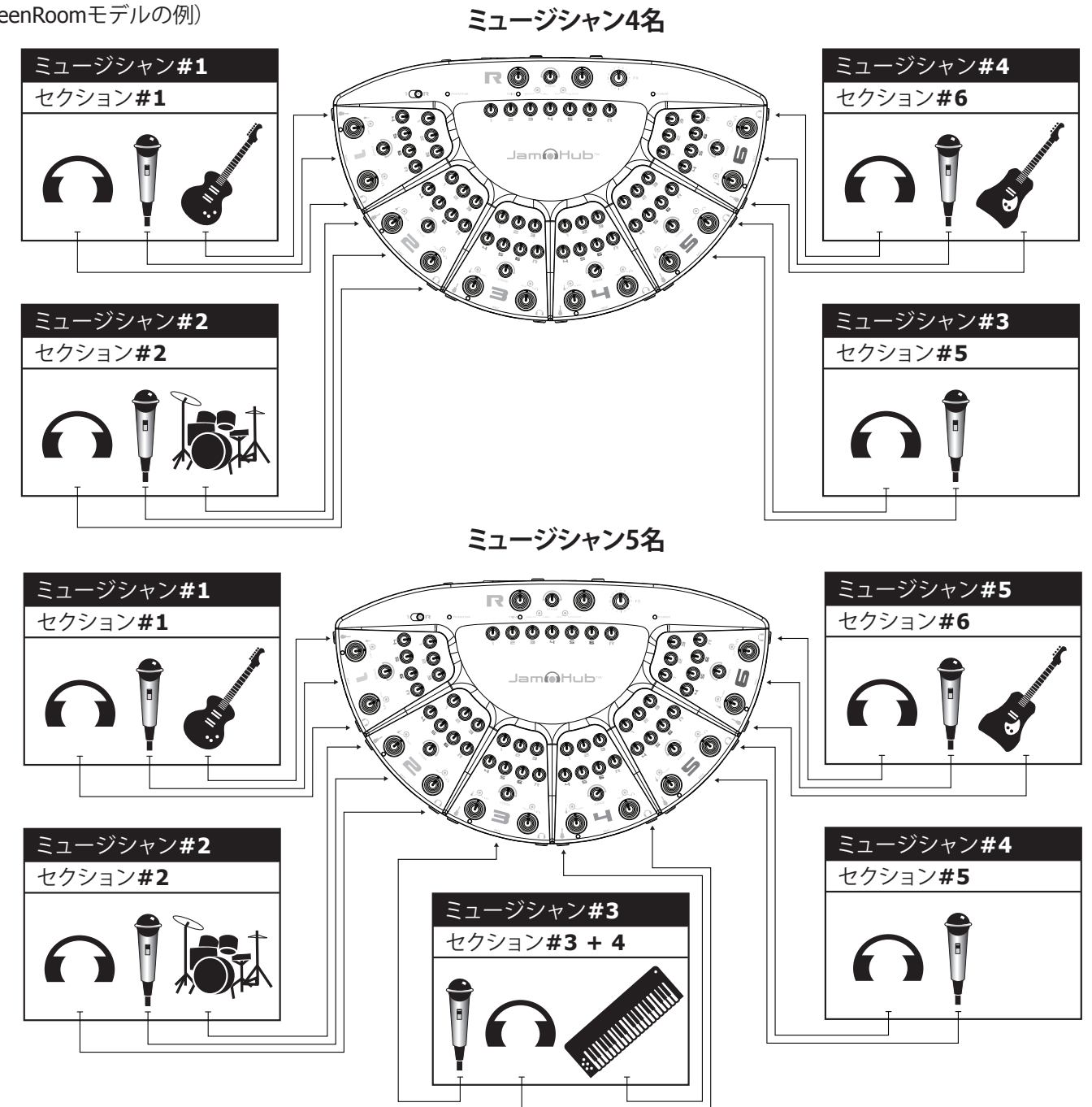
ダイヤル位置	エフェクト名	内容	左脳	右脳
A	Slap D	スラップバック・ディレイ	反対側に硬い壁がある部屋をシミュレートしたディレイです。	ロカビリー・サウンド用です。
B	Ping D	ピンポン・ディレイ	JamHubはフル・ステレオ・デバイスです。このピンポン・ディレイはそのステレオ環境を利用しています。	ステレオのディレイです。しっかり両耳で聴いてみてください。
C	Big	アンビエンス(大)	適度な反響のある大きな部屋です。	「アンビエンス」の名が示すとおり、雰囲気のあるエフェクトです。論より証拠。試してみましょう。
D	Early	初期反響音	初期反響音を重ねたディレイです。	壁が近い、小さな無響室のような音がします。
E	Chorus	コーラス	音高と時間を変化させて、ドライ信号に比べてより広がりのあるサウンドを生成します。	フェイザーとフェイザーを一緒にすると、合唱のような効果が生みれます。試してみましょう。
F	Echo	エコー	元の信号をリピートさせます。	山びこやこだまみたいな音がします。
G	Flanger	標準的なフランジャー・エフェクト	本質的にはスウィーピング・コム・フィルタです。ある信号に、その信号自体を遅延させた信号をミックスします。	ジェット機の接近飛行のような音がするフランジャーです。試してみましょう。気に入るかもしれません。でも、あまり使いすぎないようにしましょう。
H	Phaser	標準的なフェイズ・シフター・エフェクト	ピークとディップが調整されます。	ボーカル用のフェイザーです。おもしろい効果が得られますが、使いすぎないようにしましょう。
I	Spring	リバーブ・スプリング(2.0秒)	スプリング・リバーブ・タンクの2.0秒のリバーブです。	スプリング・リバーブをマイクに?試してみましょう。この設定でJamHubを使ってもタンクがクラッシュすることはありません。
J	Chapel	リバーブ・チャペル(3.0秒)	後期反響音の多い3.0秒のリバーブです。	教会と大ホールの中間のリバーブです。
K	Gated	リバーブ・ゲート(0.8秒)	0.8秒のゲート・リバーブです。	サウンドがぼらぼらにならない程度に少しリバーブがかかります。
L	Reverse	リバーブ・リバース(1.2秒)	1.2秒のリバーブ時間のリバース・リバーブです。	うーん。リバース・リバーブか。試してみよう!
M	Church	リバーブ・教会(7.0秒)	後期反響音の多い7.0秒のリバーブです。	教会で演奏したときのような音がします。
N	Med	リバーブ・ルーム(1.8秒)	短い初期反響音のある1.8秒のリバーブです。	壁や床の硬い、小さな部屋で演奏したときのような音がします。小さな反響音がたくさん聞こえます。
O	Hall	リバーブ・大ホール(2.8秒)	後期反響音のある2.8秒のリバーブです。	300~500名収容のホールで演奏したときのような音がします。
P	Small	リバーブ・小ホール(1.5秒)	初期反響音のある1.5秒のリバーブです。	100名収容のホールで演奏したときのような音がします。

モデル比較

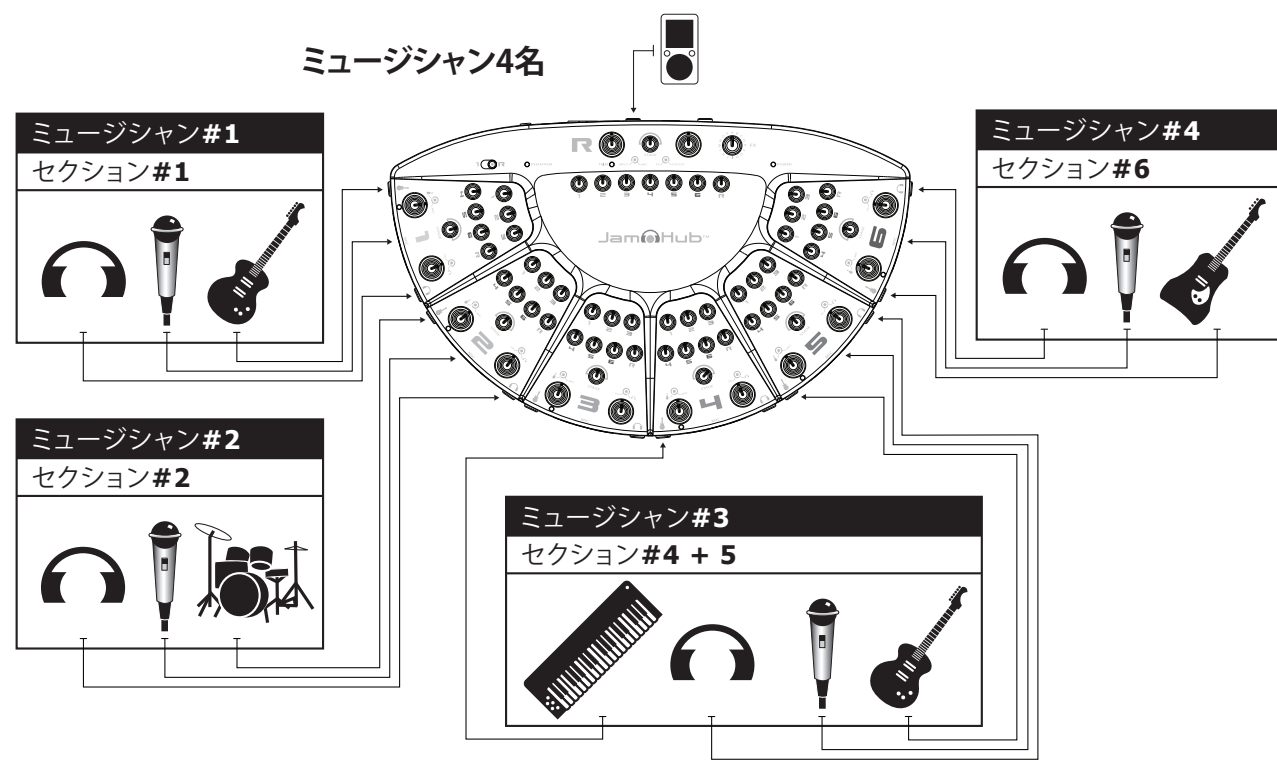
機能	BedRoom	GreenRoom	TourBus
オーディオ・チャンネル	計15 - ステレオ5、マイク5	計21 - ステレオ7、マイク7	計21 - ステレオ7、マイク7
出力	ヘッドフォン5	ヘッドフォン7 USB 1	ヘッドフォン7 USB 1
SoleMix Remote付属	なし	1	2
SoleMix Remoteコネクタ	1	4	4
ファントム電源	いいえ	はい	はい
レコーディング	アナログ(1/4インチ・ジャック)	アナログ(1/4インチ・ジャック)またはデジタル(USB)	アナログ(1/4インチ・ジャック)またはデジタル(USB)または内蔵レコーダ

接続図

(GreenRoomモデルの例)

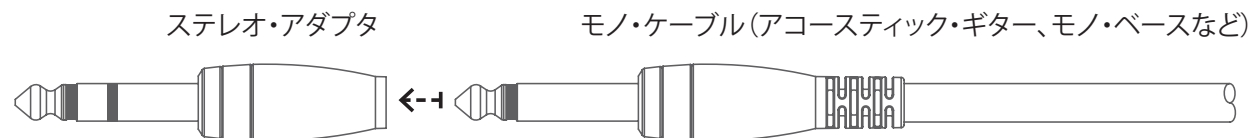


メモ:コントロール性を高めるため、ミュージシャン#3は楽器とボーカルを2つの入力セクションに分割しています。

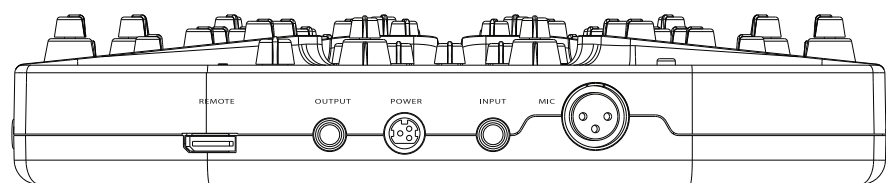


メモ:このミュージシャンはギターとキーボードの両方を演奏し、2つのセクションを使用しています。

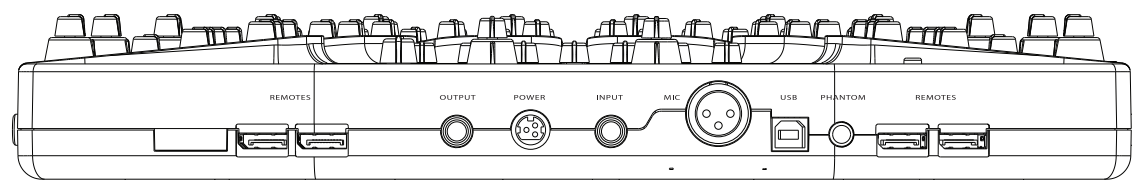
楽器の接続には、ステレオ・ケーブルまたは付属のモノ/ステレオ変換アダプタを使用してください。



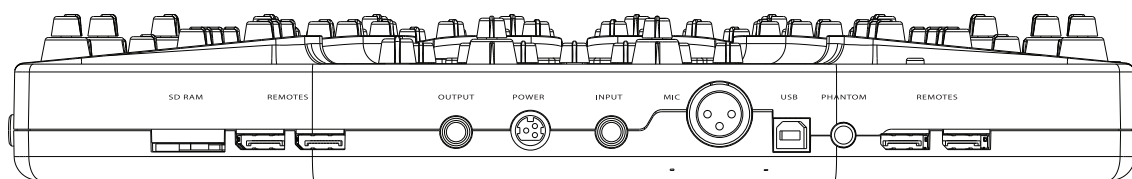
背面図



JamHub BedRoom



JamHub GreenRoom



JamHub TourBus

トリム・コントロール設定の詳しい説明

左脳:

他の機器(ミキサー、レコーディング・インターフェース、古い真空管アンプなど)についてもいえますが、トリムを正しく設定することは重要です。このような理由から、JamHubでは理解しやすい信号表示(緑 = 信号、黄 = 注意、赤 = クリッピング)を採用しています。ゲインの仕組みを理解し、正確な設定を行うことはとても重要だと私たちは考えています。この知識は、どのような機器を使う場合にも活用できます。

右脳:

下のテキストに目を通しましょう。レコーディング、ライブ演奏、JamHubサイレント・リハーサル・スタジオで入出力するサウンドのクオリティの向上に役立ちます。

トリムとヘッドルームについて

音楽を、トランポリンの上でジャンプしている人に例えて考えてみましょう。人によって、ジャンプの高さはいろいろです。これを「ダイナミクス」といいます。ジャンプの高さは、ときには低く、ときには高くなります。ミュージシャンは、この高さを変化させながら演奏しています。なぜなら、曲には音の小さな部分と大きな部分の両方があるからです。

それでは、トランポリンを天井のある部屋へと移動させてみましょう。「ヘッドルーム」という言葉を聞いたことがありますか?ヘッドルームとは、トランポリンを移動させた部屋での、私たちの頭から天井までの空間のことをいいます。天井を動かすことはできませんが、トランポリンの高さを低くすれば、ヘッドルームを広げることができます。音楽のダイナミクスがそれほどでなければ(つまり、ジャンプの高さがそう高くなければ)、ヘッドルームは小さくてすみます。しかし、ジャンプの高さが高ければ、トランポリンと天井のあいだに十分な距離をとり、高くジャンプしたときに天井に頭をぶつける(ヘッドルームがなくなる)ことがないように調整しなければなりません。

それでは、トランポリンの高さを変えるにはどうしたらよいのでしょうか?ここで登場するのが「トリム」コントロールです。トリム・コントロールを使えば、トランポリンの高さを上下に調整できます。天井までの距離は、LEDの色で確認できます。十分な距離があれば緑色、天井に近づきつつあれば黄色、頭がぶつかっていれば赤色になります。

クリッピングとは、エンジニア用語で、アンプに余裕がないこと(頭を天井にぶつけている状態)をいいます。これは、電気信号の状態を示しています。クリッピングしているサウンドは、私たちの耳には歪んでいるように聞こえます。ギター・サウンドの歪み(ディストーション)は味のあるサウンドに聞こえますが、ボーカルに歪みがあると、ほとんどの場合、いいサウンドには聞こえません。

信号対ノイズ比とは、あなたのシステムにある良い部分と悪い部分の比率です。「信号」とは、音楽を指しています。「ノイズ」とは、音楽以外の雑音を指しています。トリムはできるだけ高くに設定します。そうしないと、ノイズと音楽が同じくらいの音量で聞こえてしまいます。ノイズは、トランポリンが置かれている部屋の床だと考えると分かりやすいでしょう。床が低ければ低いほど、高くジャンプすることができます。また、トランポリンが床に近すぎると、足が床に付いてしまい、いいジャンプができません。

トリムのレベルを設定する際、いくつか覚えておきたい点があります。まず、ヘッドルームを十分に取ることです。こうすることで、システム歪みを避けることができます。トリムを最大に設定するには、最大のボリュームで演奏するのが理想的です。たとえば、シンガーであれば、ささやき声ではなく、マイクに向かってできるだけ大声で歌うのがよいでしょう。ささやき声で設定してしまうと、トリム(トランポリンの高さ)が高くなりすぎ、大声で歌ったときにヘッドルームが足りないということになります。逆に、あまり大声でマイクに叫ぶと、トリム・コントロールの設定が低くなりすぎてしまいます。この場合、シンガーがささやき声で歌ったときに、他の楽器に紛れて聞こえなくなってしまうのです。

楽器のトリムを設定する場合は、ソロ用に余裕を持たせるようにしましょう。ソロのときのボリュームが、LEDで少し黄色がかった緑色で表示されるように設定するとよいでしょう。その後、機器のフット・ペダルやボリューム・コントロールを使って、少しだけボリュームを下げます。こうすると、ソロのときにミックスのトップへと飛び出すことができます。

ボーカル・マイクでは、マイクから離れることでボリュームを下げるすることができます。プロのシンガーがやっているあの技法です。簡単に学べる優れたテクニックで、特にJamHubサイレント・リハーサル・スタジオでは便利に使うことができます。

トリム・コントロールの謎は解けたでしょうか。トリム・コントロールについては、「9時を指すように設定すべし」、「なるべく低く設定すべし」、「すべての入力と同じように設定すべし」などのとんでもない情報が氾濫しています。実際のところ、万能な設定というのはありません。マイク・楽器・機器はどれも異なっているため、それぞれに合わせた設定を行う必要があります。バンドのシンガー2人にまったく同じマイク2本を使用する場合でも、やはりシンガーそれぞれの声には違いがあります。そのため、やはり独自の設定が必要となるのです。LEDを確認しながら、ジャム・セッション中にトリムのレベルをチェックしながら調整すれば、うまく設定できるはずですよ。

GreenRoomとTourBusで使用できる追加機能:ファントム電源

GreenRoomとTourBusは、どちらもコンデンサーマイク用+48Vファントム電源に対応しています。オンにするには、ユニット背面のボタンを押します。ボタンを押すと、+48VのLEDが赤色に点灯します。

メンバーの内1人だけがコンデンサーマイクを使用する場合も、問題なく使用できます。ファントム電源はコンデンサーマイク用ですが、ダイナミックマイクにダメージを与えることはありません。ファントム電源について、詳しくはウィキペディアの記事(http://en.wikipedia.org/wiki/Phantom_power(英語))をご参照ください。

TourBusの追加機能:レコーディング機能

JamHub TourBusでは、ジャム・セッションをSDメモ리카ードへ直接録音することができます。ジャム・セッションが終わったら、録音内容をTourBusから直接再生したり、SDメモ리카ードを取り外してコンピュータに接続し、ファイルをコンピュータへ転送し、バンド(やその他の人々)と共有してチェックすることができます。TourBusでのレコーディングはステレオで、CDクオリティのオーディオ(16ビット/44.1kHz)で書き出されます。

レコーディングを始める前に、JamHubのレコーディング機能について覚えておくべき点がいくつかあります。まず、レコーディング用のミックスを作成するのは、RセクションのSoleMixコントロールであるという点です。バンドで演奏するミュージシャンの誰かがレコーディングのミックスも担当する場合、そのミュージシャンは、ヘッドフォンをセクション1に接続し、1-Rスイッチを使って自分のミックスと録音されるミックスを切り替えながら操作する必要があります。詳しくは、13ページの1-Rスイッチの項目をご覧ください。

メニューとソフトキー

ソフトキーとは、触感が柔らかいキーという意味ではなく、ソフトウェアに依存するキーのことをいいます。つまり、JamHubのレコーディング機能を使用する場合はキーの機能が変化します。電話やコンピュータ画面のキーにも同じような機能を持つものがあります。LCDの表示を確認しながら、キーを操作してください。

トランスポート(レコーディング)機能:

トランスポート機能は、よく目にする一般的な機器をもとにデザインされており、レコーディングをより簡単にする特別機能がいくつか追加されています。それでは各ボタンを順に見ていきましょう。

◀ **巻戻し:**1回だけ押しと、現在の曲を1秒間に5秒分巻き戻します。2回すばやく押しと、高速(10倍の速度)で巻き戻します。3回すばやく押しと、現在の曲を曲の頭まで巻き戻します。曲の頭から3秒以内に3回すばやく押しと、前の曲へ巻き戻します。

▶▶ **早送り:**1回だけ押しと、現在の曲を1秒間に5秒分早送りします。2回すばやく押しと、高速(10倍の速度)で早送りします。3回すばやく押しと、次の曲へ早送りします。

■ **停止:**再生、録音、早送り、巻戻しを停止します。

▶ **再生:**録音内容を再生するときに使います。

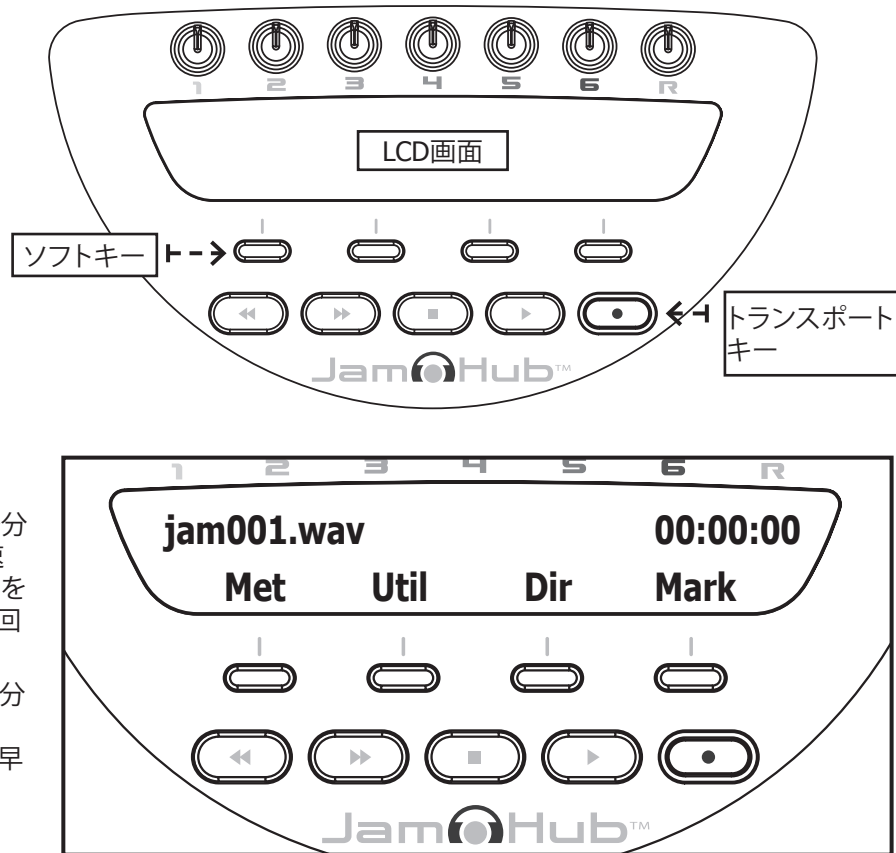
● **録音:**JamHubの録音準備を整えるのに使います。

録音キーを1回押しと、ボタンの外側の輪が赤色に点滅します。LCDには「Standby」と表示されます。これは、JamHubの録音準備が整ったことを示しています。この状態で録音キーをもう1回押しと、ボタンの外側の輪が赤色に点灯します。これは、JamHubが録音中であることを示しています。停止キーを押すと、録音が停止します。LEDのライトが消え、録音可能な状態ではないことを示します。

停止キーを押すと、録音内容を保存するかどうかを確認するメッセージがTourBusに表示されます。ファイルを保存するには「YES」のソフトキーを、録音内容を破棄するには「NO」のソフトキーを押します。

録音中、3番目のソフトキーの上に「New」と表示されます。新規の曲を開始するには、「New」を押します。TourBusに既存の録音内容が保存され、新規ファイルが自動作成されます。こうすることで、ジャム・セッション後に曲を探しやすくなります。小さなファイルをたくさん作成しておく方が、1つの大きなファイルから目当ての部分を探し出すよりも簡単ですので、このボタンを活用しましょう。

録音ボタンを囲む赤色の輪は、離れたところからでも見分けることができるようになっています。演奏中にJamHubに目をやれば、録音中であるかどうかすぐに分かります。赤く点灯していれば録音中です。点滅しているかライトが消えていれば、録音中ではありません。



左脳:

内蔵レコーダへレコーディングすると、ステレオの16ビット/44.1 kHz (CDクオリティ)になります。現在のステレオ標準は、24ビット/96 kHzです(192 kHzとする場合もあります)。内蔵レコーダによるレコーディングは、本格的なレコーディングを前にした楽曲のスケッチ用としては非常に高いクオリティとなっています。JamHubは、新作アルバムの制作に使うには力不足です。アルバムを制作するなら、優秀なエンジニアのいるスタジオで録音する必要があります。しかし、JamHubを使えば、楽曲を練習し、スタジオでの作業に十分に備えることができます。

右脳:

JamHubでは、CDと同じクオリティのステレオ・ミックスを録音することができます。音楽を生み出すことにのめり込んでいくうちに、重要なのはサンプル・レートではなく楽曲自体であることに気づくはずですよ。名曲を生み出すことに集中し、JamHubサイレント・リハーサル・スタジオを使って楽曲の練習に励みましょう。すばらしい楽曲が揃ったら、レコーディング・スタジオに入り、優秀なレコーディング・エンジニアの手を借りてアルバムを制作しましょう。

Homeメニュー:

STOP @またはjam001.wav = 録音機器の現在の状態が「停止中」であることを示しています。停止位置の時間または現在の曲のファイル名(jam007.wavなど)が表示されます。

00:00:00 = カウンターです。現在の再生位置が時間:分:秒で表示されます

Met --メトロノーム・メニューのソフトキーです。

Util --ユーティリティ・メニューのソフトキーです。

Dir --ディレクトリ・メニューのソフトキーです。

Mark または**DeIM** --録音内容に位置マークを付けたり、「DeIM」でマークを削除することができます。

メトロノーム (Met)

それでは、メトロノーム機能について見ていきましょう。「MET」の下、一番左のソフトキーを押します。

ディスプレイには以下のように表示されます。

BPM=100 - デフォルト(標準設定)のテンポです。テンポは、BPMインジケータの下のソフトキーを押して変更することができます。「+」キーを押すとテンポが上がり、「-」キーを押すとテンポが下がります。テンポの値範囲は、30 BPMから240 BPMまでです。ボタンを押したままにすると、BPMが変更される単位が大きくなります。ボタンを小刻みに押しと、押したびにBPMが最小単位ずつ変更されます。

Beat=4/4 - 拍子の種類です。「More」キーを押して別の拍子に変更することができます。詳しくは次で説明しています。

More - 拍子およびメトロノームのサウンドの種類を変更したり、ボタンを使ってテンポを設定したりできます。

Tap - このボタンを使うと、テンポに合わせてボタンを押すことでメトロノームをそのテンポに設定することができます。テンポに合わせてボタンを小刻みに押しと、JamHubのメトロノームがそのテンポに合わせて、現在のBPMが表示されます。「Esc」ボタンを押して「Met」のメイン・メニューに戻りましょう。「Met」のメイン・メニューでは、「+」キーと「-」キーを使ってBPMを微調整することができます。

Type - 拍子の種類を変更できます。JamHubのメトロノームには、1/4、2/4、3/4、4/4、5/4 (23)、5/4 (32)、7/8 (223)、7/8 (232)、7/8 (322)の9種類のテンポが用意されています(カッコ内の数字はアクセント・ビートの位置を示しています)。選択したいオプションが表示されるまで「Type」を押し続けます。

Esc - 前のメニューに戻ります。

ユーティリティ (Util)

このメニューの操作は慎重に行いましょう。UTILメニューでは、高度な設定が行えます。ですから、注意して操作しましょう。Utilメニューには、「Format SD Card」(SDメモ리카ードをフォーマット)、「Show Capacity」(空き容量を表示)、「LCD Contrast」(LCDコントラスト)という3つの機能があります。各機能は、「+」キーと「-」キーを使って切り替えることができます。「OK」を押して選択した機能へと進むか、「Esc」を押して終了します。

Format SD Card - データが破損したSDメモ리카ードを書き換える際に使用します。この機能を使用すると、カードに保存されているすべてのデータが消去され、携帯電話や磁石によってダメージを受けたカードの修復が試みられます。ダメージの程度によっては、カードを修復できない場合があります。「OK」を押してカードを再フォーマットするか、「Esc」を押してUtilメニューを終了します。

Show Capacity - SDカードの空き容量がギガバイト単位と使用パーセントで表示されます。

LCD Contrast - 「+」または「-」キーを押し、LCDのコントラスト・レベルを変更します

ディレクトリ (Dir)

ディレクトリ機能では、曲をロードし再生することができます。「Dir」キーを押し、左の2つのソフトキーを使ってディレクトリ内をスクロールします。「OK」を押してディレクトリを選択するか、「Esc」を押して終了します。

(たとえばデフォルトの「REC」ディレクトリなどの)ディレクトリを選択したら、左の2つのソフトキーを押して曲を順に選択していくことができます。すばやくスクロールするには、ソフトキーを押したままにします。この機能は、大容量のSDメモリカードを使用している場合に特に便利です。

マーク記入とマーク削除機能 (Mark/DelM)

マーク記入とマーク削除機能を使えば、録音内容をすばやくナビゲートすることができます。録音内容にマークを付けることによって、ある部分から別の部分へと「ジャンプ」したり、2つのマークの間をループ再生させることができます。

Mark – 再生キーを押し、録音内容を聞きます。マークを付けたい位置で、「Mark」キーを押します。そのまま、曲を再生させながら、マークを追加していきます。

DelM – 現在選択している位置のマークを削除します。

■ + ▶ – 次のマークへと移動します。停止キーを押すと再生が停止します。停止キーと早送りキーを同時に押すと、マークからマークへとジャンプすることができます。メモ:停止位置には一時的にマークが付けられ、この位置へ再び戻ることができます。

◀ + ■ – 前のマークへと移動します。停止キーと同時に押すと、前のマークへと戻ります。

◀ + ▶ – ループ機能です。ループの開始位置と終了位置となる2つの位置をマークします。2つ目(終了位置)のマークで、巻き戻しキーと早送りキーを同時に押すと、この2つのマークの間でループ再生されます。ディスプレイに(〜)のマークが表示され、JamHub TourBusが2つのマークの間でループ再生していることが示されます。ループを停止するには、停止キーを押します。[メモ:ループは、1つ目のマークより後であれば、ループ・リージョン内のどこからでもスタートさせることができます。たとえば、7秒の位置と17秒の位置にマークを付けている場合、10秒の位置からループをスタートすることができます。]

まとめ

JamHubオーナーズ・マニュアルを最後までお読みいただきありがとうございました。サイレント・リハーサル・スタジオの使用方法をご理解いただき、ご活用いただければ幸いです。ミュージシャンにとって、他のミュージシャンと共に集い、新しい何かを生み出すことは、大きな楽しみのひとつであると私たちは考えています。

弊社ウェブサイト(www.JamHub.com)のフォーラムをぜひご覧ください。コミュニティでは、JamHubチームとコンタクトを取ったり、JamHubの体験談を共有したり、コンテストに参加したり、ニュースレターに登録したりできます。いつでもどこでもセッションできるJamHubを使って、ツアー先のどのような場所でジャム・セッションを行ったのか、ぜひとも私たちにご一報いただければ幸いです。

皆様が音楽を楽しみ、そしてより多くの音楽が生み出されていくことを、心より願っています。

FAQ

FAQの更新リストは、弊社ウェブサイトwww.JamHub.comにてご覧いただけます。その他の質問については、弊社ウェブサイトのJamHubコミュニティをご覧ください。コミュニティでは、印刷版マニュアルの発行後に寄せられた質問に、ミュージシャン、エンジニア、技術サポートが回答しています。

ご質問がなくても、コミュニティにぜひご参加ください。他のJamHubユーザと体験を共有しましょう。

Q:アコースティック・ドラムでJamHubを使うことはできますか。

A:できます。クリアでコントロールのきいたサウンドが得られます。マイクを1〜2本ドラムキットの上に設置し、JamHubに接続します。または、小さなミキサー1つとマイク3つを使ってステレオのドラム・サウンドを作成し、このミックスをJamHubに取り込むこともできます。マイクは、スネアの近くに1つ、タム/ライドの近くに1つ、キックドラムに1つ設置することをお勧めします。2つのエリア・マイクを左右にパンし、キックを中央下に配置して、ステレオ・ミックスをJamHubのいずれかのチャンネルに送ります。ぜひ試してみてください。

Q:アコースティック・ドラムを使う場合、JamHubでドラムの音量を抑えることはできますか。

A:いいえ。ドラムの音量を抑えることはできませんが、ベース・アンプ、ギター・アンプ、キーボード・アンプ、PAスピーカーを使わないことで音量を低く保つことができます。もちろん、エレクトロニック・ドラムを使用するときほどではありませんが、アンプがないだけで、かなりの音量を抑えることができます。

Q:アコースティック・ギターでJamHubを使う方法を教えてください。

A:ご使用のギターにピックアップはありますか?ない場合は、ギターの前にマイクを立てて、JamHubの空いているマイク入力にマイクを接続します。

A:ご使用のギターにピックアップはありますか?ある場合は、モノ/ステレオ・ジャックを購入し、ギターとステレオ・ケーブルの間に差し込めば、直接接続することができます。アコースティック用のDI(ダイレクト・インジェクト)ボックスやフロア・ペダルを使うと、アコースティックのサウンドと操作性が向上します。これにはたくさんの技術的な理由があり(インピーダンス整合がその最たるものです)、プロがDIボックスを使うのもそのためです。アコースティックで演奏するなら、いずれかはDIボックスが必要となるでしょう。

Q:JamHubで使えない楽器はありますか。

A:今のところ、使えない楽器は見つかっていません。もしかしたらあるのかもしれませんが、これまでに判明している楽器はありません。メーカーによっては、いつでもどこでも演奏できる楽器を数多く開発しています。エレクトロニック・アコーディオンの製品ラインを持つメーカーもあるほどです。(1モデルだけではなく、製品ラインのすべてがエレクトロニックです)。プラス担当であれば、サイレントプラスシステムを使うことで、楽器の音量を下げ、JamHubに送信できるヘッドフォン信号を作成することができます。ギター、ベース、ドラム、ハンド・パーカッション、キーボード、アコーディオン、管楽器のほか、テルミンもJamHubで使用できます。ヘッドフォン・ジャックが付いていれば、JamHubサイレント・リハーサル・スタジオを使ってジャム・セッションを行うことができます。

Q:初心者には何かアドバイスはありますか。

A:はい。JamHubは、今年発表されたばかりのまったく新しい製品です。開発者である私たちから、皆さんがスムーズに使用を始められることができるよう、いくつかアドバイスを贈りたいと思います。アドバイスは以下のとおりです。

1. 高性能のTRS(ステレオ)ケーブルを使って、JamHubの楽器ジャックから、ご使用のモデリング・アンプ、キーボード、またはエレクトロニック・ドラムのヘッドフォン出力へ接続しましょう。
2. ヘッドフォン用の延長ケーブルを使えば、移動範囲が広がるので便利です。
3. 高音質で音楽を楽しむためにも、高品質のヘッドフォンを使いましょう。JamHubは、音響的には透過です。つまり、サウンドを変化させません。ヘッドフォンの品質に問題があっても、JamHubはそれを修正することはできません。
4. 歌う必要がなくても、各メンバーにマイクを用意しましょう。ヘッドフォンを使うので、互いのコミュニケーションにはマイクを使うのが便利です。
5. ギタリストへのアドバイス:モデリング・アンプとフット・ペダルを使うと、サウンドのボリュームをコントロールすることができ、リードのときにボリュームを上げることができます。キーボーディストへのアドバイス:使用する楽器のボリューム・コントロールを使うと、同じことができます。

Q:EQつまみがないのはなぜですか。

A:JamHubは、サウンドを変化させるようデザインされていません。サウンドを分配し、コントロールできるようデザインされています。すばらしいサウンドを奏でてJamHubへと信号を送信し、そのサウンドをバンドの各メンバーと共有するのにJamHubを使ってください。

Q:なぜファイル・フォーマットは.WAVなのですか。MP3に変換されないのはなぜですか。

A:オーディオを圧縮すると、必ずその情報の一部が失われ、クオリティに劣化が生じます。それを踏まえ、必要となるRAMは増えますが、クオリティに優れたWAVフォーマットを採用しました。ファイルをMP3フォーマットに変換したい場合は、iTunesなどのフリーウェアとして提供されているMP3エンコーダを使えば、簡単に変換できます。元のクオリティが高いほど、圧縮後のクオリティも高くなります。

警告:必ずお読みください。

極端に高いノイズ・レベルにさらされると、聴覚が永久に失われる場合があります。ノイズに起因する聴覚喪失の感受性には個人差がありますが、十分に高いレベルのノイズに十分な時間だけさらされると、ほとんどの人が何らかの聴覚障害を起こします。米国政府の労働安全衛生庁 (OSHA) は、許容されるノイズレベルの1日あたりの曝露時間として以下の値を規定しています。

1日あたりの時間	音響レベル (dBA) スローレスポンス
8	90
6	92
4	95
3	97
2	100
1-1/2	102
1	105
1/2	110
0.25以下	115

OSHAによれば、上記の許容限界を超えた場合、何らかの聴覚障害が生じるおそれがあります。高音圧による聴覚傷害を防ぐため、ユニットの動作時は、高音圧を発生可能な機器にさらされるすべての人について、聴覚保護具の着用を推奨します。上記の許容限界を超える音圧にさらされる場合は、聴覚喪失を防ぐためにも、外耳道に対する耳栓やプロテクター、または耳全体を覆うプロテクターを必ず着用してください。

限定保証 – JamHub™サイレント・リハーサル・スタジオ

保証条件:BreezSong LLC (以下「BreezSong」といいます)は、購入時に材質上および製造上の欠陥が商品にないことを、最初の消費者/買い手 (以下「購入者」といいます) に保証します。この限定保証の保証期間は、最初の購入日より通常の使用下において2年間であり、部品費用および手数料を含みます。購入者は、欠陥のある製品の限定保証期間内に、BreezSongに対して書面による通知を行う必要があります。BreezSongまたはBreezSongが認定する代理店は、BreezSongの任意により、この限定保証の範囲内で欠陥のある製品の修理または交換を行います。この限定保証は、消耗部品には適用されません。この限定保証は、以下によりシリアル番号がはがされたり改ざんされている製品、または、以下により損害または欠陥を生じた製品には適用されません: (a) 事故、誤使用、乱用、不注意、または他の外的要因、(b) BreezSongが製造または販売した部品以外の部品の使用、(c) (i) BreezSongまたは (ii) BreezSongが認定するサービスプロバイダ以外の者が実施した改変またはサービス。BreezSongは、購入者が製品に添付される指示に従わないことに起因する損害、または、製品と共に提供されるユーザー文書に記載の使用条件の範囲外の操作に起因する損害に対しては責任を負いません。購入者または認定されていない第三者が実施した修理は認められません。保証期間外の修理については、BreezSongが定める時間料金に、部品代金、送料および手数料を加えた金額が請求されます。BreezSongは、修理または交換に代わって、購入者が支払った購入価格を購入者に対して返金するかについて、任意に裁量し決定する権利を留保します。この限定保証は、製品に欠陥がある場合における購入者の唯一の救済方法です。

BreezSong製品は、新品の材料、または、新品の材料および性能と信頼性において新品と同等の使用済の材料を使用して製造されています。予備部品は、新品または新品同等のものです。予備部品に材質上および製造上の欠陥がないことを、30日間、または、部品が取り付けられている製品の限定保証期間である2年間の残存期間のうち、長い方の期間で保証します。

例外および制限:この限定保証に明示的に記載されているのでない限り、BreezSongは、商品価値を有することや特定の目的への適合性についての黙示的な保証を含め、明示的または黙示的を問わず、その他すべての保証に責任を負いません。法により定められる黙示的な保証は、この限定保証で定められる保証期間に限定されます。購入者は、この限定保証で定められる限定保証のみに基づき、BreezSong製品を購入し承認するものとします。いかなる場合においても、BreezSongは、この限定保証に基づき、またこれに限定されず、この製品の使用または使用不能に起因する、あらゆる人または所有物に対するあらゆる特別、間接、二次、偶発または結果的損害について責任を負いません。偶発的または結果的損害の除外または限定を禁じる国または地域においては、上記の制限はお客様には適用されません。

製品の修理または交換の手順:購入者は、この限定保証に基づき、BreezSongまたはBreezSongの正規代理店によってのみ、欠陥のある製品の修理または交換を受けることができます。BreezSongは、この限定保証の履行に関連するすべての送料および手数料について責任を負います。修理または交換を受けるには、BreezSongにより割り当てられる返送確認番号、および、日付が記載された購入を証明する書類を製品に添付していただく必要があります。ご連絡いただく際には、製品のシリアル番号を必ずご明記ください。シリアル番号がない場合、確認番号は発行されません。この限定保証は、返送確認番号および日付が記載された購入を証明する書類がない場合は無効となります。また、返送確認番号および日付が記載された購入を証明する書類を添付せずBreezSongへと配送された商品の受け取りは拒否されます。返送確認番号の受領、および、限定保証の対象となる欠陥のある製品の修理または交換のためのBreezSongへのお問い合わせは、下に記載の住所、電話番号、またはウェブサイトにて承っております。BreezSongまたはBreezSongが認定するサービスセンターに対して製品が直接返品された時点で、弊社よりご連絡させていただきます。

この限定保証は、特別な法律上の権利をお客様に供与するものです。国または地域によって、お客様はその他の権利を有する場合があります。

販売店により修復できない不具合がJamHubに生じた場合、弊社までどうぞお問い合わせください。

BreezSong LLC

PO BOX 482

Whitinsville, MA 01588 USA

(877) JAM-HUBS (アメリカ国内)

www.JamHub.com または info@JamHub.com にて製品をご登録ください。